

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 益山朋之
所属 (School) 工学研究科
学年 (Grade) M2

留学先 (Name of overseas institution)
台湾
留学期間 (study abroad period)
2017/7/30~2017/8/3 (5日間)

記入日 (Date) 2017/8/4

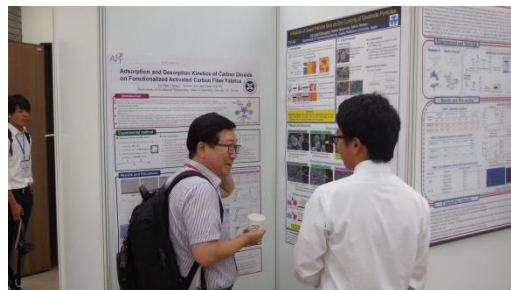
留学レポート Study Abroad Report

私は The 7th Asian Particle Technology Symposium に参加するために、台湾に 5 日間滞在しました。初めての海外ということで、多くのことが初めての体験であり、それらの体験を通じて今後の生活や研究などを見直す良い機会となりました。本レポートでは、①国際学会に参加して感じた事、②海外の研究室を見学して感じた事、③生活面で感じた事の三点について書きたいと思います。

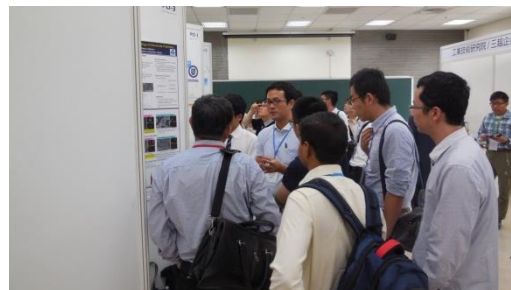
①国際学会に参加して感じた事について

これまで日本国内の学会には参加したことが何度ありましたが、国際学会は今回が初めての参加になりました。国際学会ということで、英語で外国人の方に対して発表やディスカッションをしなければならず、初めての挑戦であったため非常に不安でした。そのため、学会前の準備では、研究内容を説明しやすいように、ポスターに載せるデータや図を考えるだけではなく、文章の量やレイアウトを工夫しました。また、ポスターの内容全てを説明できるように、出来るだけ詳細に書いた英語の原稿を用意し、何度も発表練習をしました。また、質問されると思われる箇所については答えを予め英語で準備をしました。

ポスター発表の際、国内の学会と大きく異なる点がありました。日本では、ポスター発表の時間に自分のポスターの前にほとんどの人が立って説明しているのに対して、今回のポスター発表では、日本人以外の方はあまりポスターの前に立っていませんでした。そのためか、発表の際には、最初から最後まで途切れることなくたくさんの方が来て下さりました。最初に中国人の先生が来て質問して下さいましたが、日本人の英語と異なり、聞き取りにくい部分があり、質問の意味を理解することが難しかったです。また、質問に対する答えを日本語から英語にどう翻訳すればよいかでも悩みました。悩みながらも自分の知っている英語をひねり出した結果、なんとか自分が言いたいことを理解してもらうことができ、嬉しかったです。ただ、全ての人に上手く説明できたわけではなく、別の中国人の先生に対しては、なかなか自分が言いたいことを伝えることができず、最終的に指導教員の先生にフォローして頂きました。



中国人の先生とのディスカッション：なんと相手の質問に対して答えることができた



中国人の先生+学生とのディスカッション：質問に対して上手く答えることができず担当教員にフォローしてもらった

今回の国際学会での発表を通じて、瞬時に自分の考えた日本語を英語に翻訳して相手に伝えるためには、日頃から英語で会話を行うなど事前からの準備が非常に重要であると感じました。事前に発表練習や質疑対策を行っていても、結果だけ聞きたい人もいれば、研究背景について詳しく聞きたい人など様々な方がいました。また、質疑も予想していなかったことも聞かれました。そのような準備していない事に対応するためには、頭の中で考えた事を瞬時に英語に訳して相手に伝えなければいけません。しかし、普段、英語で議論を行うことがほとんどなかったため、うまく文章を考えることができず、単語とジェスチャーで表現することもありました。研究分野での専門用語は論文を読んでいれば覚えていくと思いますが、言い回しやアクセント、発音については普段から英語で議論を行ったりしていないと身に付けることはできないのではないかと思います。そのため、研究室の留学生と英語で会話するなど少しずつ努力していき、英語に対する苦手意識を無くしたいと思います。

また、学会では様々な国の方の発表を聞きましたが、国によってしゃべり方にも特徴がありました。中国の方は、声がこもって聞こえ、インドの方は喋るのが早く、聞き取りにくい方が多い印象を感じました。それでも、先生方はディスカッションを普通に行っていたので、数をこなして慣れることが重要であると思いました。

②海外の研究室を見学して感じた事について

学会の合間に Chang Gung University の Hsiu-Po Kuo 教授の研究室を見学させて頂きました。Hsiu-Po Kuo 教授の研究室では、粉体に関する研究をされており、私の所属する研究室でも見た事のある打錠機や造粒機、ジェットミル、数値シミュレーション用のパソコンなどがありました。また、バイオマスの熱分解装置や大規模なコーターなど初めて見る装置もたくさんありました。実際に研究している場面についてはみることはできませんでしたが、見学実験装置だけではなく、評価装置もたくさんの装置がそろっており、一つの研究室であらゆる実験を行うことが可能であり、研究しやすい環境だと感じました。



Chang Gung University の Hsiu-Po Kuo 教授の研究室見学

③生活面で感じた事について

初めての海外ということで出発する前は食事や飲み物が口に合うかどうか、治安は大丈夫なのかなど、不安な点が多くありました。しかし、実際に台湾へ着くと、飛行場やホテル、大学は綺麗で特に心配することはありませんでした。

一番大変だったのは、やはり言語の違いでした。これまで生活の中で英語を使うことが無かったのですが、台湾へ行って、日常会話(「タクシーを呼んでもらえますか?」や「100NTD 紙幣に両替してもらえますか?」など)を英語ではどのように言うのかは覚えていた方が良いと感じました。このような英語は、使う場面も多く、一人で海外へいく際には絶対に必要であると思います。今回の学会発表で訪れた台湾では、日本語が通じる人もいましたが、ヨーロッパなどでは日本語は通じないはずなので、気を付けなければいけないと感じました。



台北市内の風景：市内は整備されており、百貨店や日本のショップなどが多くみられた

今回の海外渡航及び国際学会を経験して、新しいことに挑戦していくということは、非常に重要なことであると再確認することができました。学会参加までに、ポスターの作製や発表練習などを限られた時間の中で行う必要があり大変でしたが、学会に参加中だけではなく、海外での移動や食事、観光といった全てのことが新しい経験であり、この経験を元に更に自分自身を成長させていくことができるチャンスになると感じました。今後も新しい事に挑戦し、様々な経験を積み重ねていき、社会に新しい価値を提供できるような人間へと成長したいと思います。